公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信

2018年
4月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆愛知県支部が女子会探鳥会を開催しました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
◆探鳥会訪問記・・・・・・・・・・・・・・・2
・特集・会員を増やすための探鳥会⑥
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・13
（2018年2月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・15
・2018年「ツバメのねぐら入り観察会」の情報をお知らせください
・2018年度「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります
・バードウィーク全国一斉探鳥会を広報しています
・新小冊子『こんにちはスズメ』を発行します
・今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は宮城県で開催！
・「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・19
◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・20
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・20

◆愛知県支部が女子会探鳥会を開催しました！

愛知県支部が開催した「女子会探鳥会」の報告をいただきましたので、紹介します。

【日程】2018年2月17日（土）10時00分～15時30分
【場所】勅使池（ちょくしいけ、愛知県豊明市）
【天候】曇りときどき晴れ　強風
【リーダー】4名
【参加人数】19名（ランチ17人）

■女子探鳥会を企画してみた

今回の女子探鳥会は、昨年急逝された普及企画部の新井さんから、生前に企画を頼まれていたものでした。その時は、「私が案内人になってからですかね～？」と言ってたのですが、すでに見守っていただくことも叶わなくなってしまいました。

それでも、今回は多くの方にご支援をいただき、愛知県支部８０周年記念のイベントとして実施することができました。新井さんの願いも込めての開催ということで、一つ約束を果たせたように思います。

■探鳥会の様子

まず受付では、思いのほか作業が多くて予想外にバタバタしました。「名簿の記帳と名前シール配布」「ランチ代集金」「よもぎ温座パット配布」（協賛企業からいただいたもの）「コアジサシ募金受付」と詰め込み過ぎました。そこでランチ代の集金は、急きょ２人でやっていただくことにしました。合わせて、当日、現地に詳しいNさんとNさんが、差し入れを持ってきてくださり、駐車場の案内も手伝ってくださいました。

受付後に
「クイナがいるよ。」
という声に、他所で案内人もされてるSさんが他の参加者も誘導して観察してくださり、そのまま探鳥会は開始の流れに入っていきました。

最初の貯水湖のエリアでは水鳥をじっくり観察しました。オシドリの見られる場所までのんびりと移動しながら観察。運よくオシドリも遠めながら出てきてくれて皆さんで盛り上が

りました。オナガガモがぐっと減ったもののハシビロガモがたくさんいて、グルグルのエサ取りも見られたそう。

後半は暴風の中、あまり鳥も見られないので早歩きで移動することになり、あまりの風に笑いながらも負けずにお喋りして移動しました。トイレで一息ついたらジョウビタキとハイタカが登場。ジョウビタキが愛想良かったそうです。

そのまま貯水湖の東岸をゆっくり歩いているとアオジのペアが採食していて、じっくりと観察。雌雄の判別などもでき、大盛り上がりでした。ここまで近くで観察できるのは、他にはないこの探鳥地の醍醐味の一つといってもいいと思いました。

その後、ミコアイサ、カンムリカイツブリを観察し、最後に時間が少々余ったので風の当たらない場所でお喋りしながら鳥を見てるとジョウビタキのオスがどんどん近くに出てくれて、みなさん手持ちのカメラで撮影されていました。

その後、駐車場横の葦原湿地で何かいないかと探すとツグミに混じってアリスイが飛んだ！慌てて、でも、静かに飛んだ先で葦に潜むアリスイを見つけ、皆さんで観察しました。カメラで撮って見ていただいたので、初めての方も大喜びでした。

ランチ会場に移動してからもブッフェで賑

▲探鳥会の様子

やかで和やかな時間を過ごしました。ピザとパスタをいただきながらテーブルごとに情報交換と交流ができたようです。

■普段探鳥会に参加されない方が参加

普段、探鳥会にあまり参加されないという方も参加してくださり、企画して良かったなと思いました。そして、女子ならではなのか、車の運転に自信がないので日帰りバスツアーなどもやって欲しいとのお声もいただきました。ランチ付きだとゆっくりお話ができて良いなぁと思いました。また面白い企画を考え実行したいと思います。

最後に一緒に計画・下見の準備までしてくださったサポーター３名に感謝申し上げます。

（日本野鳥の会愛知県支部／星野綾子）

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会⑥）

今月号では、１月 21 日～２月 25 日に５か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。
※全体で８回を開催した栃木の探鳥会、２月 12 日の京都支部の探鳥会は、来月号に掲載いたします。

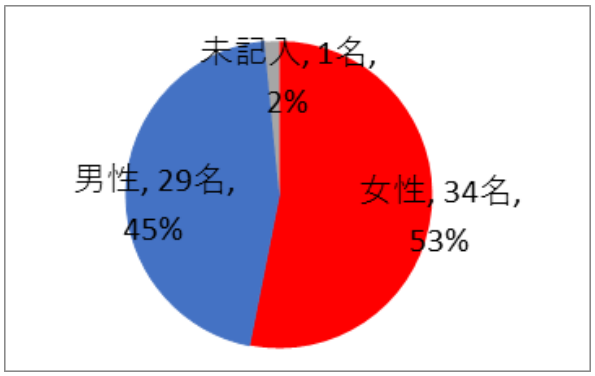
表１.

実施日	支部	実施場所	
2018/1/21（日）	札幌支部	札幌市	**真駒内公園**
2018/1/27（土）	神奈川支部	海老名市	**相模大堰**
2018/2/4（日）	奈良支部	奈良市	**平城宮跡**
2018/2/11（日・祝）	神奈川支部	横浜市	**新治市民の森**
2018/2/25（日）	神奈川支部	座間市	**新田宿**

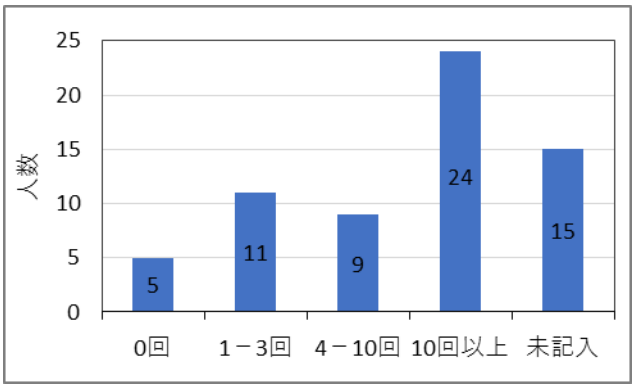
真駒内公園　初心者探鳥会（札幌支部）

【日程】2018 年 1 月 21 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】真駒内公園（北海道札幌市）
【天候】曇り
【参加者】64 名（うち一般参加者 31 名）
【リーダー】13 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ、支部 HP
＜メール＞一斉メール送信
（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（11 月初旬から全国約 45,000 名に送付）

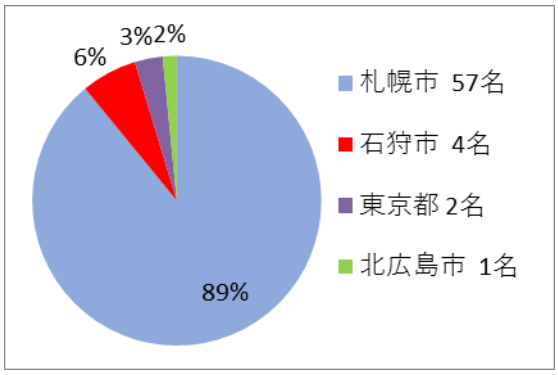
【性別】



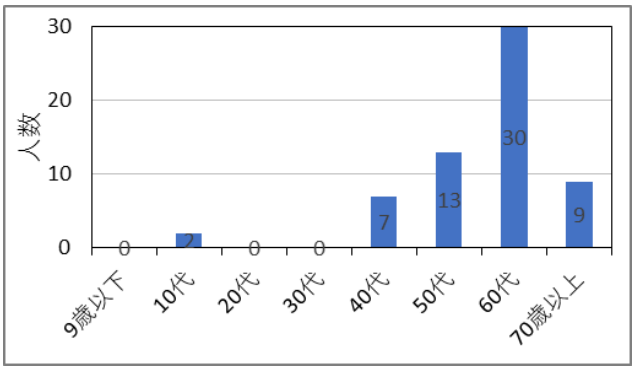
【バードウォッチングの経験回数】



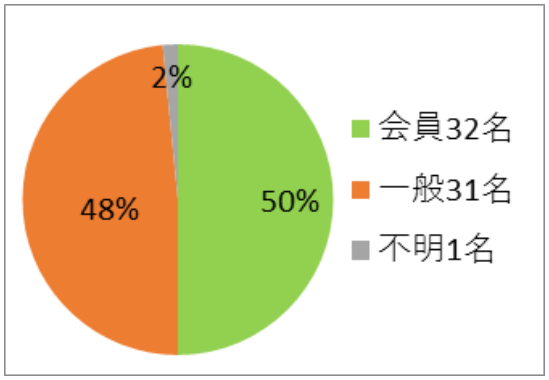
【お住まい】



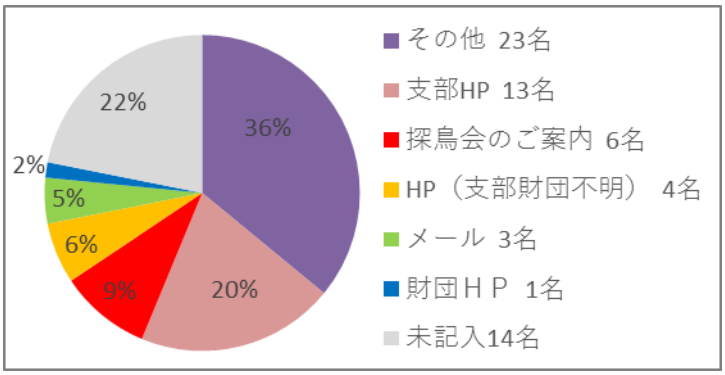
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



財団職員が参加できなかったため、札幌支部の猿子さんから報告をいただきました。

■開催場所について

北海道立真駒内公園は 1972 年（昭和４７年）に開催された札幌冬季オリンピックのメイン会場となった場所です。公園内には屋外競技場とアイスアリーナ、サケ科学館などの施設が建っています。敷地面積は８５ヘクタール。敷地内には５万本の天然林と１万３千本ほどの植栽林が生い繁り、樹齢３００年を超える古木が２５本以上もあります。春は桜、秋には紅葉した並木道を歩くことができますし、特に春先は北側の森床にカタクリの花の大群落が見られ、豊かな森には１年を通じてたくさんの野鳥が飛来します。冬の園内には赤い実がなったナナカマドの林があちらこちらにあって、この赤い実を求めて、たくさんのキレンジャク・ヒレンジャク・ツグミの群れが訪れ、シラカバ林やカラマツ林にはマヒワ、ベニヒワの大群が毎年、飛来します。昨年の１１月中旬からは樹齢３９０年のイタヤカエデの古木の洞にフクロウが滞在し、新聞・テレビなどで報道され、すっかり有名となって、カメラを持ったたくさんの人がその姿を楽しめるようになりました。

フクロウがいる樹の周囲は立入り禁止のロープが張られて人があまり近づかないように守られています。いまのところ、訪れる方々の観察マナーが良いせいか、特に大きなトラブルもなく、ゆったりと洞の入口に止まっていて、ゆっくりと観察できています。毎年、春と冬に探鳥会を開催していますが今回はレンジャク類とフクロウを探鳥会の観察メインにし、さらにはカラ類やキツツキ類をしっかりと初心者にも観察できるようなコースを選びました。

■探鳥会の様子

とにかく、探鳥会で一番大切なことは参加した人たちが楽しんで野鳥を観察できることに尽きるでしょう。世話人一人で、たくさんの初心者を持たないような工夫もしました。まず参加者全員を大きく２つのグループに分け、公園内の同じコースを時計まわりに歩くグループと反時計まわりで歩くグループに分けて、先頭・中間・最後尾にも世話人を配置して世話人一人に対して８～１０人ほどの参加者のお世話できるように人員配置を行いました。

また、野鳥が見られるポイントを記載した地図を事前に用意して、公園内の地理に疎いといった世話人でも説明がしやすいように配布しました。

当日は曇り空ながらも風も無く穏やかな天候となり、野鳥も予想以上に随所に見られて、終了した後の参加者の満足そうな笑顔が印象的でした。参加者の笑顔を見たいと毎回の探鳥会では詳しい鳥の説明よりも野鳥を楽しく見てもらうことが第一と考えて、いつも行っています。今回はレンジャク類、フクロウなど２３種類を観察でき、歩く道も除雪が行きとどき、トイレも随所にあるので参加者も安心して野鳥観察に集中できたようです。正に諺にあるとおり「備えあれば憂いなし」といったところでしょうか。

▲キレンジャクをじっくり観察中

しかしながら、ここの自然を守る保全するということに関しては重大な問題が発生しています。北海道日本ハムファイターズが新球場の建設候補地のひとつに掲げたことです。屋外競技場を取り壊して、その場所に新球場を建設するといった案が提示されており、同じく新球場の候補地の他の一つとして北広島市のきたひろしま総合運動公園も示されていて、今年３月には決定することとなります。これが決まれば公園内を自由に歩くことは難しくなるだろうし、野鳥や自然への甚大な被害がおこるものと予想されています。

（日本野鳥の会札幌支部／猿子正彦）

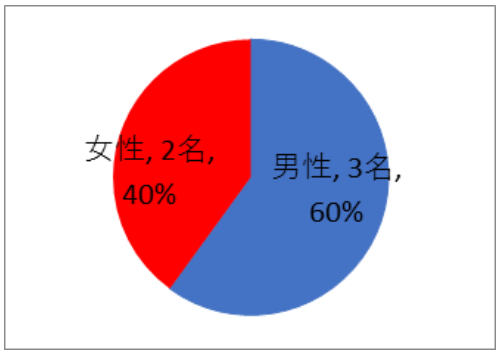
※原稿をいただいた後に、北海道日本ハムファイターズの新球場建設の予定地は、真駒内公園ではなく北広島市の公園が選択されました。

（普及室）

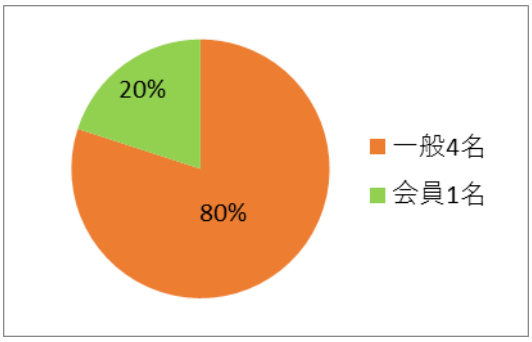
初心者歓迎　カモの観察会 in 相模大堰（神奈川支部）

【日程】2018 年 1 月 27 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分
【場所】相模大堰（神奈川県海老名市）
【天候】晴れ
【参加者】５名（うち一般参加者 4 名）
【リーダー】９名、財団職員 1 名
【お試し入会】３名（一般参加者のうち約 75%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ
　＜メール＞一斉メール送信
　　（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）

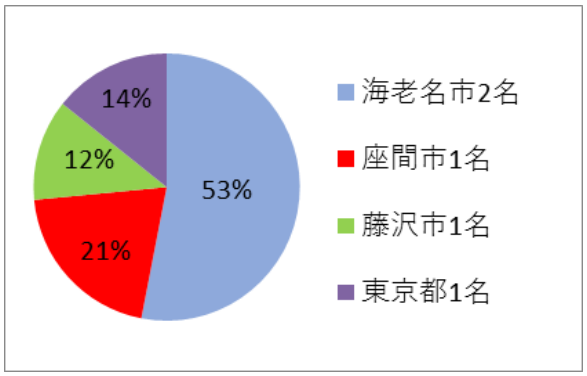
【性別】



【一般/会員】



【お住まい】



■神奈川支部の会員増加プロジェクト

神奈川支部の会員は、2006 年度は 3,660 名でしたが、2016 年度には 2,402 名と３割強減少しています。2000 年代初頭から年間 100 人のペースで会員が減少し続け、このままこの状態が続くと、会費収入の減少により単年度決算で支部の会計は赤字会計となること、幹事やリーダーの後継者が先細り支部の運営が立ち行かなくなることが危惧されています。

そこで、2017 年 12 月 3 日の神奈川支部の「会員の集い」と同日別室で開催された「拡大幹事会」にて、「会員増加プロジェクト」が正式に発足されました。同プロジェクトでは、会員ではないビギナーを対象とした探鳥会を年間 10 数回連続開催し、参加者を勧誘し入会者を増やしていこうということを骨子としています。またこれに合わせて、支部のリーダーを育成して、事業実施のための基礎体力を養成していくことも狙っています。

■探鳥会の様子

今回の探鳥会は、会員増加プロジェクトが立ち上がってから初めての探鳥会でした。会場となったのは、神奈川県を南北に流れる相模川にある探鳥地「相模大堰」。神奈川支部の連携グループである「ふれあい自然探鳥会」が担当でした。神奈川支部では、県内で活動する３つの地域の探鳥会グループと連携関係を作っており、ふれあい自然探鳥会はその一つです。

集合場所は、小田急線「厚木」駅から JR 相模線に乗り換えて一駅の「社家」駅前です。事前申込された方８人のうち、３人から欠席の連絡があり参加者は５人でした。この探鳥会は会員ではない方を対象としているため、支部報では広報せず、財団がもつ 13,130 名（うち、神奈川県在住は約 4000 名）の方に対してメールで広報を行いましたが、思ったほど参加者は集まらず広報の難しさを実感しました。

しかしながら、参加者の中には昨年東京が実施した、日比谷公園での探鳥会に参加された方もいて、交通の便利な首都圏らしく、県をまたいで遠方からの参加者もいました。その他、近所にお住まいで、今回の探鳥地はいつも散歩で歩いているコースだという方もいらっしゃいました。ほとんどの方が双眼鏡を持参されていました。

開始時間となり、リーダーのあいさつと本日のスケジュールの紹介の後、相模川に向かって歩いて行きました。10 分ほどで河川敷に出て、各リーダーがマンツーマンで双眼鏡の扱い方の説明をおこないました。続いて、川面の方角でオカヨシガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモなどの観察。また、後ろの河川敷では、タヒバリが地面を歩いているのを観察したり、ジョウビタキがススキ原に止まっているのをしばらく観察しました。スタートから約１時間ほど同じ場所で移動せずに観察して、ハクセキレイやエナガなど、自分たちが動かなくても鳥の方から次々と視野に入ってきてくれて非常に効率のよいバードウォッチングとなりました。

その後、その場所から川を下流に向かって数百mほど移動しながら堰の周辺を観察して、カワウやアオサギ、キンクロハジロなどの大型の水鳥をじっくりと観察しました。

最後に、鳥合わせとお試し入会のご案内をおこないましたが、参加者５人のうち、３人が入会されました。お一人はご夫婦だったので、４組中３組がご入会でした。バードウォッチングの面白みを短い時間の中で体験し、今後ご自分の生活の中でどこでどのような参加の場があるのかを説明を受けて、「続けられそうだ。」という確信をえてからご入会いただいた、そんな参加者の気持ちの流れが見えたような気がした探鳥会でした。

▲丹沢と東名高速をバックにした相模川

▲参加者に図鑑で解説するリーダー

■来年度は 12 回のビギナー向け探鳥会を

神奈川支部では、現在他の地域連携グループの「鎌倉自主探鳥会」「こまたん探鳥会」からもビギナー向け探鳥会の企画が上がってきているそうです。こうした地域連携グループの協力で、来年度は 12 回のビギナー向け探鳥会を企画できるめどがついたそうです。

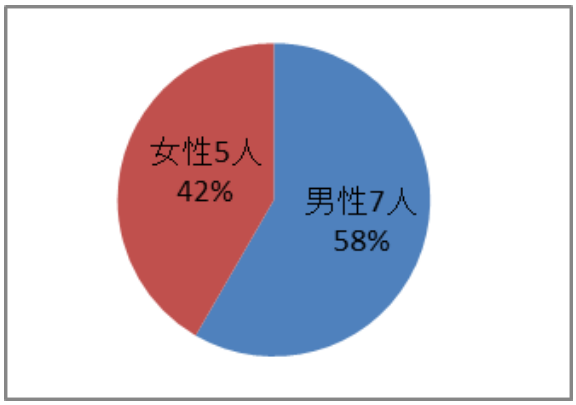
今後も神奈川支部の探鳥会を通じた入会促進の動向に注目していきたいと思います。

（普及室／箱田敦只）

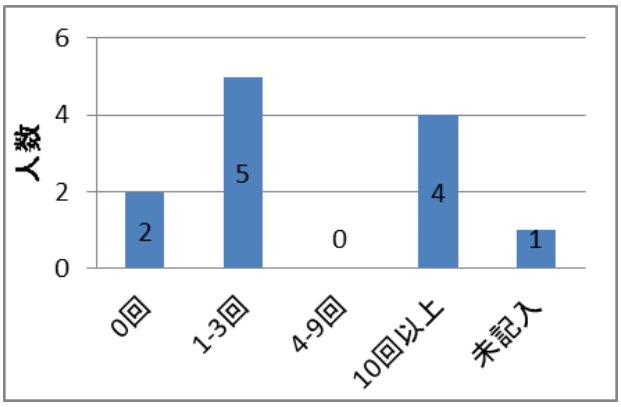
平城宮跡　水上池水鳥探鳥会（奈良支部）

【日程】2018 年 2 月 4 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【場所】平城宮跡（奈良県奈良市）
【天候】晴れ
【参加者】12 名（うち一般参加者 10 名）
【リーダー】2 名、財団職員 1 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち 30%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ、支部 HP、Facebook、奈良市広報 WEB 版
＜メール＞一斉メール送信
（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）

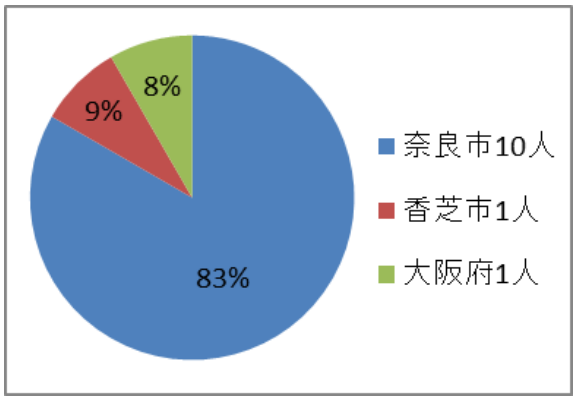
【性別】



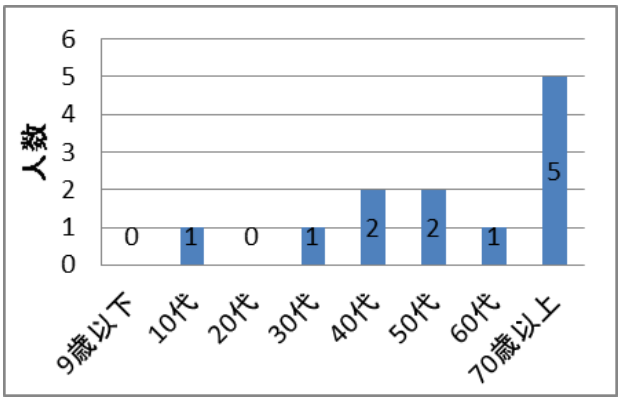
【バードウォッチングの経験回数】



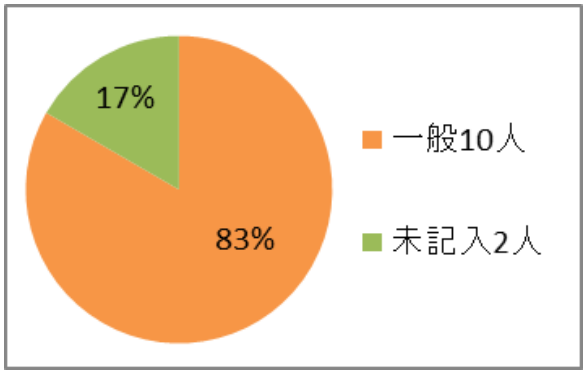
【お住まい】



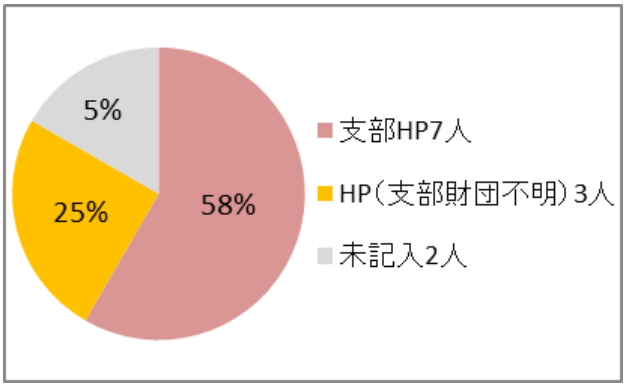
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

奈良支部の「会員を増やすための探鳥会」の開催地としてこの紙面にも度々登場する平城宮跡・水上池が今回の会場です。市民によく知られた場所で公共交通機関でも自家用車でも簡単にアクセスでき、平坦で誰でも歩きやすく水鳥を観察しやすい、初心者向け探鳥会会場として良好な条件を備えています。

今回は 12 名の参加がありました。当日は支部の準定例探鳥会も兼ねており会員も 10 名ほどあつまりました。全体で 30 人弱のほどよい人数で、集合場所から遊歩道を北へ、水上池を反時計回りに一周するコースを約 3 時間かけて歩きました。

■探鳥会の様子

晴れてはいるものの、やや風があり雪が時折ちらつく寒い日です。集合場所ではリーダーたちがにこやかに次々と集まってくる参加者を出迎え、名簿記入依頼や資料配布と同時に双眼鏡の貸し出しやカレンダーの販売などをテキパキと進めます。

定刻になるとリーダーが初めての参加者を集めて
「私たち 2 人が初めての方々をご案内します。会員もたくさんいるので一緒に楽しみましょう！」
とあいさつします。いったん初心者だけを集めることで、参加者がリーダーや他の参加者の顔を覚えることができる大事なステップだなと思いました。

水上池南側の道路からはカモ類やカワウ、サギなどの水鳥が見られました。リーダー以外の会員も積極的に参加者に話しかけたりスコープでの観察を促したりと、初心者向け探鳥会を全体で盛り上げています。

双眼鏡の操作をもう一度丁寧におさらいするグループからは
「すごくはっきり見える！」
「やっと双眼鏡の使い方が分かった！今までほんとに見づらかったんです。」
と声が上がりました。双眼鏡をしっかりと使えるようになった参加者はどんどん自分で鳥を見つけようとし始めました。ハシビロガモをスコープで覗いた参加者からは
「ビロードみたい！なんてキレイなの。」
と感嘆の声が上がります。リーダーからくちばしの形の秘密や、雄雌の羽の色の違いなどの説明を聞きながら心ゆくまで美しい色を楽しんでいました。ヒドリガモやコガモの声がよく聞こえ、耳も楽しませてくれました。

水上池北側の遊歩道ではカワラヒワ、エナガ、シジュウカラ、田んぼではケリなどを観察しました。やや鳥の数は少なかったものの、どの参加者も間近でゆっくりと野鳥との出会いを楽しむことができていました。鳥合わせの後お試し会員の案内をして散会しました。

▲コガモはいるかな？

■参加者の声

40 代女性：以前から参加したくて、やっと来ることができました。こんなにたくさん鳥を見ることできてビックリしています。近所なのでこれからも参加したいです。

70 代女性：双眼鏡を持っていてもうまく使えなかったので今日きちんと教えてもらえてよかったです。これから仲間に入れて頂いてたくさん鳥を見たいです。

■まとめ

平城宮跡での探鳥会は、100 名以上の参加者が殺到し取りまとめが大変になることもあります。それらの経験を踏まえて、毎回スムーズに運営するための工夫をされているところが素晴らしいです。今回は参加者数が適度で、開催後に探鳥会運営方法をじっくりと振り返る余裕があり、カード式名簿導入の場合の効果や、会員に積極的に探鳥会運営に関わってもらう方法、お試し会員勧誘の方法などが話題に上がっていました。毎回多くの会員が初心者向け探鳥会を積極的にサポートしてくださる奈良支部の気風が、こういった情報を共有することでより良い武器になるのではと感じました。

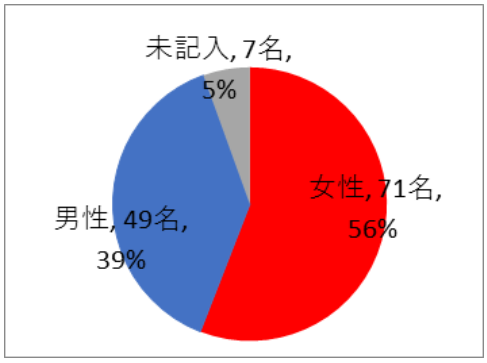
（普及室／浅野綾子）

新治市民の森で冬の鳥を見つけよう！（神奈川支部）

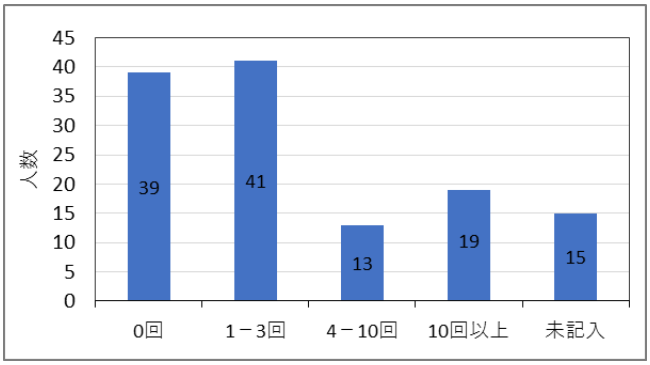
【日程】2018 年 2 月 11 日（日・祝）9 時 00 分～11 時 45 分
【場所】新治市民の森（神奈川県横浜市）
【天候】晴れ
【参加者】134 名（うち一般参加者 113 名）
【リーダー】13 名、財団職員 2 名
【お試し入会】21 名（一般参加者のうち 19%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ
＜メール＞一斉メール送信
（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（11 月初旬から全国約 45,000 名に送付）

※グラフは、参加者のうち、参加者受付カードに記載のあった 127 名を集計しています。

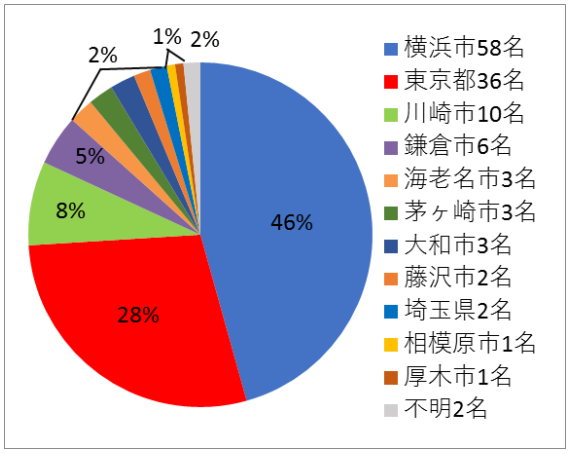
【性別】



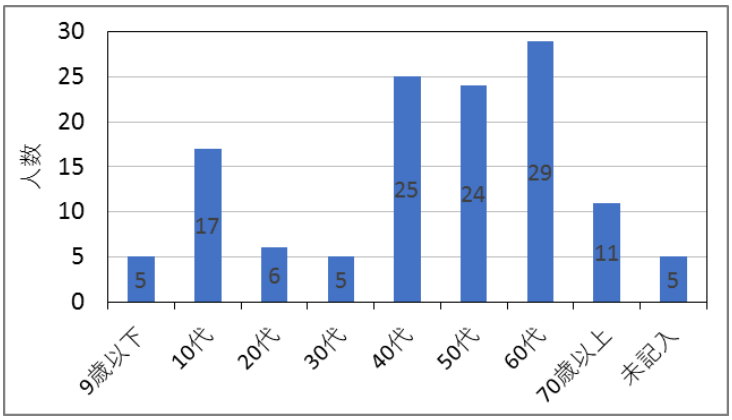
【バードウォッチングの経験回数】



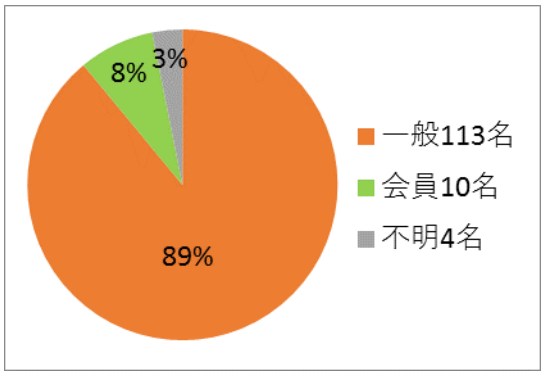
【お住まい】



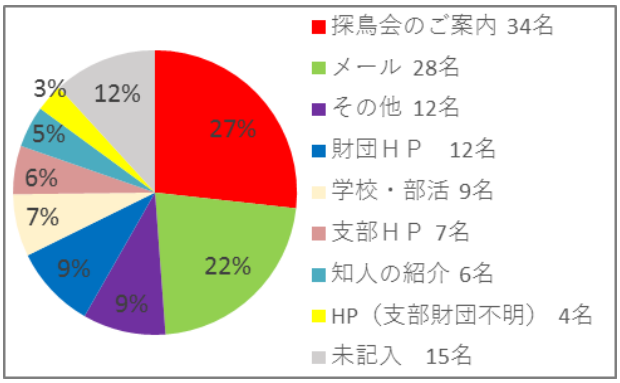
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

開催場所の新治市民の森は、横浜市の北西部、丘陵地帯に位置します。雑木林や水田など、横浜の原風景ともいえる里山の景観が多く残されています。

探鳥会は、JR 十日市場駅の駅前広場に集合し、観察からまとめまでは、班ごとに行いました。参加者は 134 名。親子班を含む５班に分かれました。

■探鳥会の様子

この日は 13 名が、リーダーやサブリーダーとして参加していました。８時 30 分頃になると参加者が集まり始めます。当初 70 名程度の参加者が予測されていましたが、家族連れや先生に連れられた中学生グループの参加もあり、たちまち 100 名を超える人数に。リーダーは、足りなくなった名簿を印刷するなど手分けして対応しました。

９時になるとリーダーから挨拶があり、グループ分けでは、人数合わせゲームとして、２人組、４人組、８人組、16 人組とグループをつくってもらいながら５班に分かれました。

「班のメンバーは、今日のお友達です。」

とのリーダーの声に、参加者の笑顔が生まれ、場も和んだようでした。

班ごとに挨拶をして、新治市民の森に向けて歩き出しました。団地の中を抜けていくと、懐かしい里山の風景が広がっていきます。リーダーが畑で食べ物を探すツグミを見つけ、

「ツグミは渡り鳥で、この時期しか見られません。木の上の食べ物が無くなってくると、地面にいる姿がよく見られます。」

と説明します。興味を持った参加者からは、

「いつ頃帰るのですか？」

「オスとメスは見分けられますか？」

などと質問があがっていました。

9時45分頃、新治市民の森北側にある拠点施設「にいはる里山交流センター」に到着。トイレ休憩の後、全グループに向けて、日本野鳥の会の説明や見られる鳥、お試し入会の紹介が紙芝居を使って行われました。

交流センターを出発し、谷戸を進んでいきます。オナガやアオジ、ヒヨドリの群れなどが観察できました。林に入り、池に到着すると、カワセミが魚を取ろうとダイビング！木に戻ったところをリーダーが望遠鏡に合わせました。カワセミは後ろのグループが到着してもずっと同じ場所におり、全グループ、全員が見ることができました。

▲池でカワセミを観察

11 時前に、来た道を解散場所の交流センターに向かって歩き出しました。道中にはオオイヌノフグリやホトケノザが咲いています。

「今日は暖かくて良かったですね。」

「横浜にこんな里山があると知りませんでした。」

と参加者同士の会話が聞こえてきます。土手にはアオダイショウの死骸があり、リーダーは空にいるトビを説明しつつ、

「暖かくなって出てきたところを、轢かれたのかもしれません。こうした命も鳥に食べられるなどして、無駄なものはないんですよ。」

と伝えていました。

11時30分頃から、里山センターの広場で、見られた鳥やお試し入会のお誘いを班ごとに行い、終了になりました。

■参加者の声

60 代くらいの男性：リタイアをして、鳥を見るようになりました。昨年双眼鏡を買い、興味が高まっています。

50 代くらいの男性：カンムリウミスズメ保護事業の取組みを知り、日本野鳥の会と接点ができました。山下公園の探鳥会が楽しかったので、今回も参加しました。

■まとめ

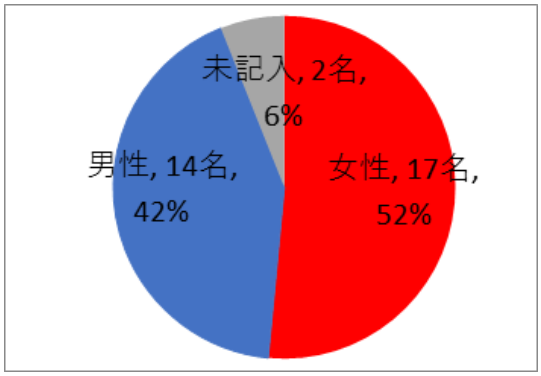
参加者が多く、需要の高さが実感できた一方、大人数の対応となったため、リーダーから「次は事前申込みにしよう」という声があがっていました。参加者の中にはリピーターの方もおり、「正式入会をしたい」という声も聞かれました。神奈川支部では 2017 年度５回の「会員を増やすための探鳥会」を計画しています。そうした成果が現れているように感じました。

（普及室／堀本理華）

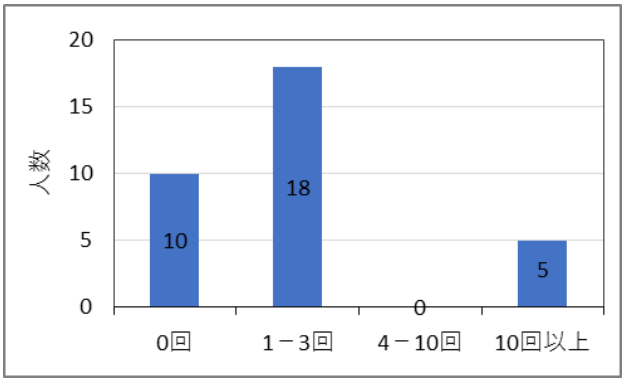
ビギナーズのための田んぼの冬鳥観察会（神奈川支部）

【日程】2018 年 2 月 25 日（日）9 時 30 分～12 時 00 分
【場所】新田宿（神奈川県海老名市）
【天候】曇り
【参加者】33 名（うち一般参加者 21 名）
【リーダー】9 名、財団職員 1 名
【お試し入会】4 名（一般参加者のうち約 19%）
【広報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook／Twitter／ブログ
＜メール＞一斉メール送信
（1/10、北海道、栃木、神奈川、奈良、京都、和歌山、大阪 13,130 名に送信）

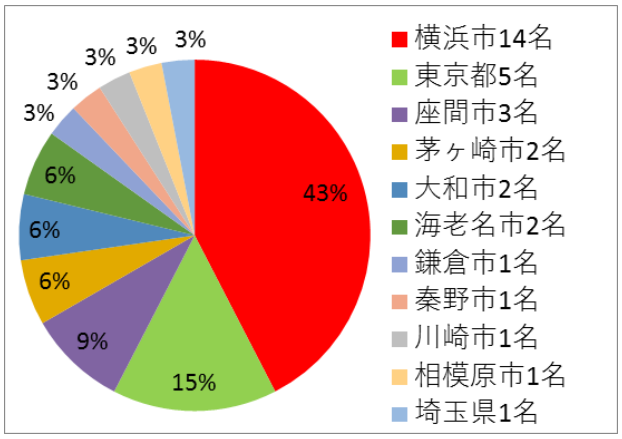
【性別】



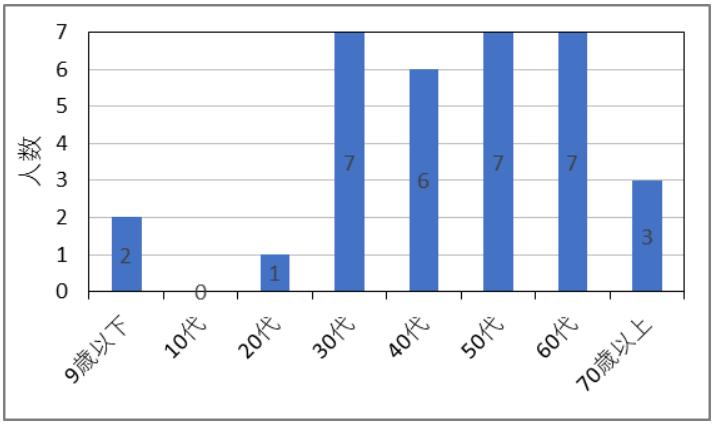
【バードウォッチングの経験回数】



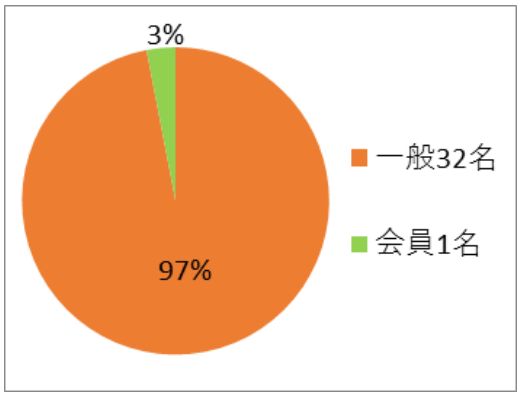
【お住まい】



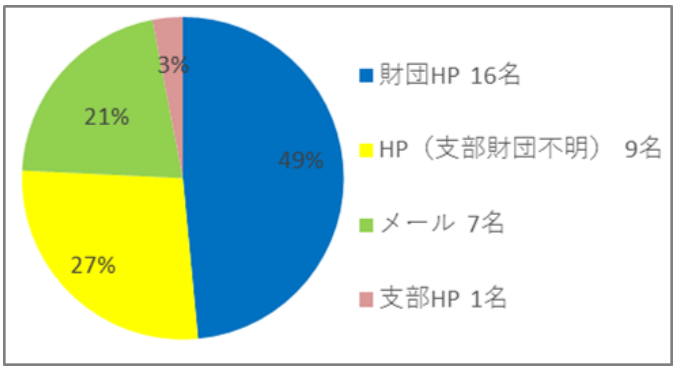
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■懐かしい出会い、参加者がリーダーに

２月としては暖かい朝。農耕地や河川敷の探鳥会は、風や寒さが初心者には大敵です。当日は、心配していた寒さや風もそれほどではありませんでした。

開催開始１時間前、リーダーが集まってきます。皆さんやる気満々です。リーダーは、総勢９人。参加者は 33 人ですから、約４人に１人リーダーがつくことになります。十分なリーダーの人数です。

その中に懐かしい顔が・・・。

「5 年くらい前に、財団主催の探鳥会に参加させていただき、その後、バードウォッチングを楽しませてもらっています。」

と声をかけていただきました。バードウォッチングをやってみたいと思っている方に、探鳥会に参加してもらいたいと支部の皆さんとともに始めた「初心者向けの探鳥会」。その参加者が、今はリーダーになっていることに感動し、とても嬉しくなりました。

■参加者の笑顔や感動は、リーダーの力の源

リーダーの挨拶、コースやトイレの説明、自動車やカメラマンへの配慮や注意が終わるといよいよスタートです。

住宅街を通り、農耕地に出ると、畑や田んぼが広がり、スズメ、ツグミ、ヒヨドリ、モズたちが、次々に顔を見せてくれます。初めてバードウォッチングをする方も、悪戦苦闘しながら双眼鏡に挑戦。リーダーは、望遠鏡を鳥たちに合わせて、それぞれが解説をしていきます。そこら中から、

「きれい！」

「かわいい！」

「こんなにたくさんいるんですね！」

と、声が聞こえてきます。こんな声を聞くことにやりがいを感じてしまうのだと思います。

■目玉となる種類を初心者に見せるか否か？

農耕地を進んでいきますが、本日の目玉の「タゲリ」が姿を見せてくれません。初心者に「タゲリ」は、まだ早い、もったいないという気もしますが、運営する側にとっては、やはりあの姿を見てもらいたいという気持ちになります。

相模川の広い河原にでると、タゲリが流れのそばにいました。

「タゲリがいました！」

というリーダーの弾んだ声につられて、参加者も

「どこどこ。早く見たい！」

と、ちょっと興奮した雰囲気に。初心者に数の少ない野鳥を見せることに賛否両論あるかと思いますが、参加者とリーダーが一緒に盛り上がれるような雰囲気作りが、探鳥会には必要なんだろうなと思いつつ、私も久しぶりのタゲリをしっかり観察させていただきました。

▲観察の様子

■反省会の重要性

相模川の河川敷で、その日観察できた野鳥たちの解説、お試し入会のご案内やお勧めの双眼鏡の紹介を行い、解散となりました。その後の反省会では、２キロほどの距離にある駅まで道案内を付けずに解散してしまったことが反省点にあげられていました。確かに、農耕地をバードウォッチングしながらくねくねと歩いてきたので、駅までの道がわかりづらいです。反省点をみつけて次につなげることが重要と感じました。

■参加者の声

20 代男性：はじめたばかりで、どこに行っていいか分からず参加しました。若い方が少なくて、ちょっと寂しいですが、いろいろ野鳥のことを教えていただいたり、何より、野鳥のいろいろな話をすることが楽しいです。

60 代男性：自宅の近くで探鳥会が開催されていないので、ちょっと遠出をしてきました。猛禽が好きなので、ノスリやミサゴが観察できてとても良かったです。

30 代ご夫婦：夫婦でバードウォッチングをはじめました。いろいろな場所に行ってみたいと思い参加しました。他の場所の探鳥会にも参加してみたいです。

（普及室／富岡辰先）

◆探鳥会保険集計結果（2018 年 2 月分）

2 月は 70 支部からご報告をいただき、計 280 回の探鳥会が開催され、のべ 6,941 人が参加されました。

表 2. 2 月の探鳥会保険集計結果（2018 年 3 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
オホーツク支部	1	20	3	1	24
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	3	0	1	4
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	1	0	2	2	4
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	60	26	6	92
小樽支部	2	9	4	2	15
苫小牧支部	1	11	0	2	13
室蘭支部	1	10	1	3	14
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	8	8	3	19
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	16	0	2	18
秋田県支部	4	39	4	4	47
山形県支部	2	15	7	3	25
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	18	8	5	31
北上支部	1	10	4	3	17
宮城県支部	2	23	11	5	39
ふくしま	1	33	0	2	35
郡山支部	2	23	0	5	28
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	0	1	4	5
会津支部	0	0	0	0	0
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	15	5	1	21
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	126	89	13	228
栃木	16	261	87	48	396
群馬	7	80	63	25	168
吾妻	1	16	2	2	20
埼玉	17	429	117	117	663
千葉県	10	145	36	41	222
東京	14	555	30	70	655
奥多摩支部	11	189	57	43	289
神奈川支部	11	189	58	37	284
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	32	5	4	41
石川	1	12	5	2	19
福井県	–	–	–	–	–
長野支部	2	31	6	4	41
軽井沢支部	1	9	3	1	13
諏訪支部	1	0	6	2	8
木曽支部	–	–	–	–	–
伊那谷支部	1	8	2	2	12
甲府支部	2	41	4	4	49
富士山麓支部	1	4	1	1	6
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	10	1	2	13
南富士支部	2	86	18	3	107
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	3	43	9	7	59
遠江	5	123	49	14	186
愛知県支部	13	205	156	38	399
岐阜	–	–	–	–	–
三重	3	22	13	4	39
奈良支部	8	152	20	17	189
和歌山県支部	1	4	4	4	12
滋賀	6	42	38	12	92
京都支部	10	174	125	34	333
大阪支部	20	397	81	80	558
ひょうご	6	73	56	21	150
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	21	0	2	23
島根県支部	3	5	17	3	25
岡山県支部	5	100	52	14	166
広島県支部	5	82	35	7	124
山口県支部	4	22	50	6	78
香川県支部	3	118	21	4	143
徳島県支部	5	74	11	5	90
高知支部	2	13	11	2	26
愛媛	4	34	28	8	70
北九州支部	4	54	7	5	66
福岡支部	6	55	14	13	82
筑豊支部	3	39	7	3	49
筑後支部	3	14	4	6	24
佐賀県支部	3	29	7	4	40
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	4	49	13	6	68
大分県支部	1	14	3	1	18
宮崎県支部	4	51	13	4	68
鹿児島	3	33	20	10	63
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	2	2	1	2	5
全国	280	4589	1539	813	6941

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2018 年「ツバメのねぐら入り観察会」の情報をお寄せください■

今年も、野鳥初心者にも関心を持ってもらいやすい「ツバメのねぐら入り観察会」を集約して広報し、一般の方が野鳥や当会に関心を持つきっかけになる場づくりをしたいと考えております。4 月 6 日に各支部事務局宛に 2018 年「ツバメのねぐら入り観察会」情報のご提供に関する書類をお送りいたしました。

広報を希望される観察会がありましたら、5 月 15 日（火）までに、Email または FAX、郵送で財団普及室までお知らせください。

とりまとめた探鳥会の情報は、ホームページやパンフレット「探鳥会のご案内」、メール送信等で広報し、特に一般の方に参加を呼び掛けます。（「野鳥」誌にも掲載予定です。）

【記入例】

	ツバメのねぐらマップ
希望部数	50 部
送り先	支部事務局

	掲載内容
タイトル	多摩川　ツバメのねぐら入り観察会
都道府県	東京都
開催場所	多摩川中流域河川敷
所在	府中市
交通	京王線「中河原」駅下車
ＰＲ	約 30,000 羽のツバメの大規模なねぐら入りが観察できます
開催日	2018 年 7 月 21 日（土）
主催	日本野鳥の会〇〇
参加費	無料
集合時間・場所	18:00 ／京王電鉄中河原駅北口集合
解散時間･場所	20:00 ／上記解散
持ち物	虫除け対策、懐中電灯
備考	・要事前申し込み（7/15 までに、参加者のお名前、ご住所、お電話番号、メールアドレスを、メール〇〇にてお知らせください） ・雨天中止

【送付先】
E-mail ：tancho-staff@wbsj.org
FAX：03-5436-2635
住所：〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
（公財）日本野鳥の会　普及室　普及教育グループ

【締切】5 月 15 日（火）

■2018 年度
「野鳥の子育て応援（ヒナを拾わないで）キャンペーン」が始まります■

野鳥の子育ての季節に、人によるヒナの誤った保護を防ぐために続けてきた当キャンペーン。今年で 24 回目を迎えますが、毎年問い合わせが途絶えることはありません。このキャンペーンが人と野生生物との関わりを考える機会になるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

＜ポスター掲示にご協力お願いします＞

（公財）日本鳥類保護連盟、NPO 法人野生動物救護獣医師会と共同でポスターを制作し、全国の幼稚園、学校、図書館などに掲示をお願いしています。４月上旬に、全連携団体（支部）宛てに 30 枚ずつお送りしましたので、皆様のお住まいの地域の掲示板や施設等で掲示にご協力いただける場所がありましたら、掲示をお願いいたします。ポスターの追加送付のご希望もお待ちしております。なお、ポスターは、当会ホームページからダウンロードもしていただけます。

＜紙芝居や小冊子をご活用ください＞

巣立ちビナは拾わずに見守ってほしいことを伝える紙芝居『わたしのことり』、地面にいるヒナへの対処方法を解説した小冊子『ヒナとの関わり方がわかるハンドブック』をご用意しています。野鳥の子育ての時期にぜひご活用ください。詳しくは、当会ホームページでご確認いただくか、右記までお問合せをお願いいたします。

＜お申込み・問い合わせ先＞

日本野鳥の会　普及室　　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23　丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：nature@wbsj.org
ホームページ：
日本野鳥の会　ヒナを拾わないで で検索

■バードウィーク全国一斉探鳥会を広報しています■

バードウィーク全国一斉探鳥会情報のご提供ありがとうございました。財団で以下の広報を実施しますのでお知らせいたします。

（１）「探鳥会のご案内」送付

３月下旬に、パンフレット「バードウィーク全国一斉探鳥会」のご案内を東日本（北海道、東北地方、関東地方、長野、山梨、静岡、岐阜、三重、愛知、新潟）23,000 名、西日本（富山、石川、福井、近畿地方、中国四国地方、九州沖縄地方）9,000 名の方々（小冊子申込者等）に送付しました。

・「バードウィーク全国一斉探鳥会（東日本版）」PDF
http://www.wbsj.org/shibu/tancho/img/birdweek2018_east.pdf

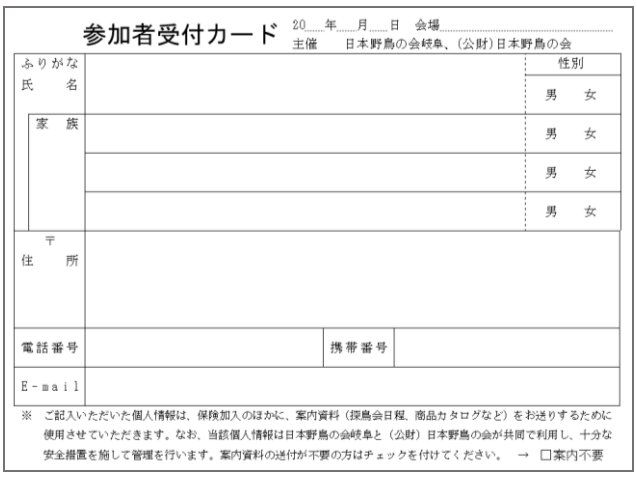
・「バードウィーク全国一斉探鳥会（西日本版）」PDF
http://www.wbsj.org/shibu/tancho/img/birdweek2018_west.pdf

（2）財団 HP 上に特設ページ開設
　財団 HP 内に、以下のページを公開しています。
・バードウィーク全国一斉探鳥会のご案内（5/3 - 5/27 開催）
http://www.wbsj.org/activity/event/isseitancho2018/

（3）一斉メール送信
　4 月中旬に全国約 5 万 4 千人（小冊子申込者等）に送信予定です。

【カード式受付名簿のご利用のお願い】
　バードウィークの時期の探鳥会は、会員ではない方の参加が多く見込まれます。会員ではない探鳥会参加者に向けて、右図の「カード式受付名簿」をご利用いただき、名前のほか、住所などを記入していただくことで、財団からパンフレット「探鳥会のご案内」を年 4 回送付することなどが可能です。ぜひご検討いただければと思います。
　名簿の共有方法など、詳細につきましては、2017 年 10 月に支部事務局あてにお送りした資料をご覧いただくか、普及室普及教育グループ（ tancho-staff@wbsj.org ）までお問い合わせください。

【効果測定へのご協力のお願い】
　財団では、探鳥会のご案内や一斉メール送信による広報の効果を測りたいと考えています。上記のカード式の名簿をお使いにならない場合、今回情報をご提供いただいた探鳥会について、当日の参加者の「お名前」をメール（ tancho-staff@wbsj.org ）か FAX（03-5436-2635）でお送りいただけますと幸いです。なお、お送りいただく際は、メールの場合はエクセルにパスワードをかけ、パスワードを別送してください。FAX の場合は、送信前に普及室普及教育グループ（TEL 03-5436-2622）にご一報ください。
　ご協力よろしくお願いいたします。


参加者受付カード　20　年　月　日　会場
主催　日本野鳥の会岐阜、（公財）日本野鳥の会

ふりがな 氏　名		性別 男　女
家　族		男　女
		男　女
		男　女
〒 住　所		
電話番号		携帯番号
E-mail		

※　ご記入いただいた個人情報は、保険加入のほかに、案内資料（探鳥会日程、商品カタログなど）をお送りするために使用させていただきます。なお、当該個人情報は日本野鳥の会岐阜と（公財）日本野鳥の会が共同で利用し、十分な安全措置を施して管理を行います。案内資料の送付が不要の方はチェックを付けてください。　→　□案内不要

▲カード式受付名簿

▲探鳥会のご案内表紙
（左：東日本版、右：西日本版）

■新小冊子『こんにちはスズメ』を発行します■

普及室では、バードウォッチングに興味を持つきっかけとなるような小冊子を制作しています。この度、新しい小冊子『こんにちはスズメ』を発行しました。（4 月 6 日付けで、支部事務局宛に見本をお送りしています）この小冊子は、身近な野鳥であるスズメをテーマに、季節ごとのスズメの行動などを紹介しています。

4 月 20 日以降、新聞等で広報してお申込みをいただいた方へ配布していく予定です。

『こんにちはスズメ プレゼントハガキ』も 4 月中旬に完成いたしますので、ぜひご利用ください。

▲表紙

▲11-12 ページ

■今年度の「探鳥会リーダーズフォーラム」は宮城県で開催！■

今年度は初の東北での開催です。

詳細な募集要項は、8月頃にご案内できる予定です。

【日時】2019 年 2 月 16 日（土）13:00～
17 日（日）12:00（予定）
【会場】エポカ 21（宮城県栗原市）
【定員】40 名
【参加費】未定
（10,000 円～13,000 円を予定）

■「探鳥会リーダーズフォーラム」の分科会を担当してみませんか？■

「探鳥会リーダーズフォーラム」で分科会を企画、実施してくださる方を募集します。探鳥会にまつわることで全国のリーダーと共有したいこと、話し合ってみたいことがある方はご連絡下さい。
※分科会の開催については、内容や募集数を勘案し事務局で調整させていただきますのでご了承ください。

◎募集要項
分科会の所要時間は ①2 時間（1 日目）②1 時間 30 分（2 日目）があり、事例の紹介や進行を行っていただきます。分科会の企画運営、進行などは必要に応じて事務局でサポートさせていただきます。お気軽にご相談下さい。

＜締め切り＞　2017 年 7 月末
＜お申込み＞企画する分科会について、以下の項目を添えて、
tancho-staff@wbsj.org までお送り下さい。
・分科会タイトル
・分科会内容（200 字程度で）
・希望する所要時間
・ご担当者（支部名、お名前、電話番号、連絡の必ず取れるメールアドレス）

◆お問い合わせ／お申込み
日本野鳥の会　普及室　普及教育グループ
【担当：箱田、関】
Mail：tancho-staff@wbsj.org
TEL：03-5436-2622

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信４月号の電子メール版の購読者数は、先月より１名増えて838名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表３．探鳥会スタッフ通信４月号電子メール版の購読者数（2018年４月13日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	長野支部	1
根室支部	0	軽井沢支部	1
釧路支部	2	諏訪	7
十勝支部	1	木曽支部	1
旭川支部	3	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	3
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	9
道南桧山	1	愛知県支部	44
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	30
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	16
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
二本松	1	岡山県支部	28
白河支部	2	広島県支部	9
会津支部	2	山口県支部	16
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	15
茨城県	22	北九州	11
栃木	59	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	5
埼玉	38	佐賀県支部	5
千葉県	21	長崎県支部	1
東京	67	熊本県支部	14
奥多摩支部	48	大分県支部	4
神奈川支部	25	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	1
福井県	10	合計	838

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

新年度が始まりましたね。みなさまはいかがお過ごしですか？

こちらでは、サクラはあっという間に散ってしまいましたが、シジュウカラたちの鳴き声が賑やかです。

そうすると、気になるのは近所にやってくるツバメの様子。事務局にも、「毎年来ているツバメが、まだ来ないのだけど…」など、ツバメに関するお問い合わせをいただくことが多くなりました。当会では、ツバメの全国調査として「ツバメの子育て状況調査」というウェブサイトで、多くの方からツバメの巣と子育ての情報を集めています。運営に関わっている自然保護室の職員によると、ツバメの子育ての進み具合はだいたい例年並み、とのことです。

最後になりましたが、今年度も「探鳥会スタッフ通信」の編集を担当することになりました。引き続き、よろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第61号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2018年4月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org